

第3回 日本ツメガエル研究集会の報告

第3回 日本ツメガエル研究集会が、2009年10月5日(月)～7日(水)に宮島社の宿(広島県宮島町)にて開催されましたので、これまでの集会開催の経緯と併せて報告いたします。

本研究集会は、北海道大学の福井彰雅先生が发起人となり、合宿形式とシンポジウム形式を交互に取り入れて開催されています。合宿形式により、早朝から一日中、十分な時間をかけてディスカッションする機会を設け、シンポジウム形式では、他分野の研究者を交えて議論することで、より広い視点・着想を得ること、およびツメガエル研究コミュニティの外への情報発信を行うことができます。第1回研究集会(世話人:北大・福井先生)は合宿形式で行われ、PI・ポスドクを合わせて30名弱が定山溪温泉(札幌市)に集い、北海道の清々しい気候のもと熱い議論を交わしました。また、第2回研究集会(世話人:徳島大・渡部稔先生)はシンポジウム形式で行われ、「ツメガエルが拓く胚発生・形態形成研究の新展開」と題したワークショップを第41回発生物学会年會において開催しました。

第3回研究集会の開催地については、第1回が東日本であったことから、研究集会組織委員会において中国四国地方、もしくは九州地方を候補とし、最終的に広島県・宮島での開催を決定しました。宮島は、山陽新幹線と在来線山陽本線沿いに位置し、全国からのアプローチが比較的容易である一方、瀬戸内海に浮かぶ宮島の緑豊かな環境は、日頃の雑音を排除した中で深く思考するのに適していました。地方都市での開催は旅費の負担が大きいため、次世代を担う学生の参加が危ぶまれましたが、学生16名、一般30名、招待1名と多くの方々が参加してくださいました。研究発表は、各自持ち時間20分の口頭発表(22演題)のみとし、参加者全員がすべての研究発表を傾聴できるようにしました。また、関連分野の第一線で活躍されている研究者による招待講演(1時間)を企画し、名古屋大学の松田洋一先生に脊椎動物の染色体進化について講演していただきました。さらに、*Xenopus laevis* ゲノム解読の現況説明と話し合いの時間を確保し、本研究集会が研究者間の情報交換・交流の場となることに加えて、共同研究やプロジェクト推進のプラットフォームとして活用できるようにしました。

会場の準備としては、十分なディスカッション時間を確保するために、コーヒースペースの用意やコンパクトなホテル内で参加者全員が寝食をともにする環境を整えました。また、研究集会組織委員からの助言もあり、宿泊部屋とは別に懇親会部屋を設けて、夜遅くまで自由に議論できる環境を用意するとともに、希望に応じて個室利用を提供し、それぞれの参加者がリラックスしてサイエンスに没頭できるように配慮しました。ホテル周辺は豊かな緑に囲まれ、世界遺産・厳島神社も徒歩数分の距離に位置し、散策や夜の厳島神社ライトアップなど、過密な発表スケジュールの合間にも手軽に気分転換を図ることができたのではないのでしょうか。なお、今後の課題としては、参加者全員に発表機会がいきわたるように、ポスター発表の導入を検討することが研究集会組織委員会で話し合われました。

全体として、シニアから若手の研究者、および学生の幅広い参加者による活発な議論がおこなわれ、非常に有意義な集会であったと思います。最後になりましたが、集会開催の裏方として貢献してくれた広島大学・両生類研究施設の竹林公子さん(鈴木研)、柳澤誠さん(古野研)、岡田守弘さん(矢尾板研)、そして、助言やサポートをいただいた研究集会組織委員の方々に、この場を借りて感謝いたします。